別表 1 東北森林管理局健康診断等の検査要領

	検査項目	対象者	検査要領等	備考
一般定期健康診断	1 既往歴及び業務歴 (問診、視診、しよく触)	全 員	既往症及び業務歴、治療歴、服薬歴、喫煙歴等について調べる。 また、体格、骨格、筋肉等の発育状況、栄養状態、貧血の有無、運動器の異常、その他疾病等について問診、視診、しよく触により調べることをし、特に次の患者に注意する。 (1) 統合失調症、てんかん、麻薬あるいはアルコール中毒その他精神神経系の疾患 (2) 結核性疾患、感染症その他 (3) ぜんそく、その他アレルギー疾患 (4) 肝脾疾患、胃、十二指腸疾患 (5) 高血圧、心臓病、腎臓病、糖尿病 (6) トラコーマ、白内障、緑内障、その他の眼疾患 (7) 外傷歴、手術歴、神経痛、リュウマチ、性病等 (8) 前歴職業に関連のある職業病	
	2 身長、体重、腹囲、視力及び聴力の検査並びに肥満度の測定	全 員 ※腹囲については35歳時及び40歳以上でBMI20以上の職員。ただし、妊娠中の女性職員その他の者であって、その腹囲が内臓脂肪の蓄積を反映していないと診断された職員は除く。	(1) 身長測定については身長計を背にして立ち、両足のかかとをつけ、足先を30度ないし40度開き、かかと、しり、背部の三点を身長計柱に接触し、ひざ、背及び頸をのばし、あごを引いた姿勢で測定する。 (2) 体重測定については体重計を水平に固定し、なるべく脱衣させ、台板の中央に静止して測定する。また、着衣のまま測定した場合には、その着衣の重量を差引く。 (3) 視力については試視力表を用い、試視力表から5mの位置に立たせて実施する。試視力表の高さは眼の高さとし、試視力表の照度より低くしなければならない。検査は片目ずつ裸眼視力及び眼鏡を用いた矯正視力を検査する。 (4) 聴力についてはオージオメーターにより、周波数1,000ヘルツと4,000ヘルツについて検査する。	身体の計測において、BMIを次の算式により算出する。 体重(kg) / (身長(m)) ² スクリーンスコープ等の機器により検査してもよい。
	3 自覚症状及び他覚症状の有無の検査	全 員	問診時に自覚症状、他覚症状の有無について調べる。	
	4 胸部エックス線検査	全 員 ※すでに胸部結核検査の結果、生活指導区分がされている職員以外の職員(妊娠中の女性職員を除く)	原則として、エックス線間接撮影とする。フィルムは100mm×100mmで1枚どりとし、肺がんの胸部エックス線検査については、結核の検査に用いるエックス線写真を読影することにより行う。	デジタル撮影も可能。 胸部エックス線検査(間接、直接)において医師が必要と認めた者に対しては、心陰影の異常の有無、動脈硬化の有無についても検査する。
	5 喀痰細胞診	40歳以上の職員及び30歳以上の希望する職員のうち、喫煙指数600以上の者	専用容器に採取(3日法)した痰を蓄痰細胞診YM式によって実施する。	喫煙指数=1日の平均喫煙本数×喫煙年数
	6 血圧の測定、血糖検査並びに尿中の蛋白、糖及び潜血の有無の検査	全 員 ※血糖検査については35歳時と40歳以上の職員及び希望する職員	(1) 血圧測定については水銀血圧計等により検査することとし、排尿させた後、深呼吸回数を含め5分以上安静をとらせ、椅子にすわった姿勢で肘間接を十分伸展させ、右腕の肘を心臓の高さに一致させて測定する。 (2) 尿検査については試験紙法等により尿中の糖、蛋白及び潜血の定性試験その他必要な検査を行う。	
	7 心電図、LDLコレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪、貧血、尿酸、腎機能、膵機能、白血球数及び腫瘍マーカー(CEA及び高感度PSA)の検査	35歳時と40歳以上の職員及び希望する職員 ※CEAの検査については40歳以上の職員、高感度PSAの検査については50歳以上の男性職員	(1) 心電計は12誘導(四肢誘導、単極誘導、胸部誘導)とする。 (2) 貧血の検査は、血色素量、赤血球数及びヘマクリット値を検査する。 (3) 腎機能の検査は、血液中クレアチンを検査する。 (4) 膵機能の検査は、血液中アマラーゼを検査する。	
	8 胃の検査	40歳以上の職員及び30歳以上の希望する職員(娠中の女性職員を除く)	原則としてエックス線間接撮影とし、フィルムは100mm×100mmで6枚どりとする。	デジタル撮影も可能。
	9 肝機能検査	35歳時と40歳以上の職員及び希望する職員	血液中のGOT、GPT、r-GTPを検査する。	
	10 便潜血反応検査	40歳以上の職員及び30歳以上の希望する職員	連続する二日間に採取(それぞれ別)した糞便中の潜血(ヘモグロビン)反応を検査する。	